

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-145605

(43)公開日 平成5年(1993)6月11日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 4 M 1/00		N 7117-5K		
H 0 4 B 7/26	1 0 9 M	7304-5K		

審査請求 未請求 請求項の数1(全 4 頁)

(21)出願番号 特願平3-302934

(22)出願日 平成3年(1991)11月19日

(71)出願人 000005821

松下電器産業株式会社

大阪府門真市大字門真1006番地

(72)発明者 村上 健一

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

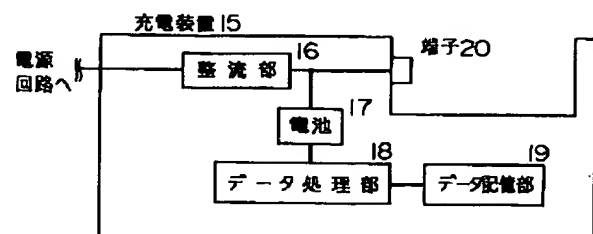
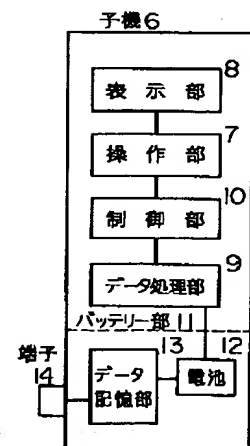
(74)代理人 弁理士 小銀治 明 (外2名)

(54)【発明の名称】 携帯無線電話装置

(57)【要約】 (修正有)

【目的】 子機の充電時に子機間のデータ交換が可能な携帯無線電話装置を提供することを目的とする。

【構成】 子機6の操作部7から入力されたデータは、データ記憶部13に蓄えられる。親機に構成された充電装置15に子機を載置すると、子機の端子14と充電装置の端子20が接続し、子機の電池12が充電されつつ、子機の制御部10によってデータ記憶部に格納されているデータを送出し、充電装置のデータ記憶部19に格納する。この子機のデータを他の子機にコピーしたい場合は、他の子機を充電装置に載置することで、データ処理部18がデータ記憶部のデータを取り出し、他の子機の記憶部に送信して格納させられる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】電源を供給すると共に不使用時は充電が可能な電池と、データの記憶を行い、前記電池により常時リフレッシュされているデータ記憶部と、入力されたデータ信号を格納若しくは読み出しに適した形式になるように処理するデータ処理部と、装置全体を制御する制御部とを有することを特徴とする子機と、充電時に電力を供給する電池と、データの記憶を行い、前記電池により常時リフレッシュされているデータ記憶部と、充電時にデータを取り込み、若しくは前記データ記憶部が有するデータを送信する充電装置とを有することを特徴とする携帯無線電話装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、子機と充電装置間でデータの交換を行なう携帯無線電話装置に関する。

【0002】

【従来の技術】近年、携帯無線電話装置はその利便性、経済性の向上と共に、広く利用されるようになってきた。

【0003】以下、図面を参照しながら従来の携帯無線電話装置について説明を行う。図2は従来の子機のブロック構成図である。図2に於いて、1は装置の制御用データ信号の処理を行うデータ処理部、2は外部からの操作信号を入力する操作部、3は表示を行う表示部、4は装置全体を制御する制御部であり、5はデータを蓄えるデータ記憶部である。

【0004】以上のように構成された従来の子機について、以下その動作を説明する。子機に電話番号や住所録等のデータを記憶させるときは、操作部2から記憶させる前記データを入力する。入力された前記データは表示部3に表示されると共に、データ記憶部5に格納される。

【0005】通話時に操作部2より番号入力されると、制御部4はデータ処理部1を起動させ、データ処理部1はデータ記憶部5を参照しながらデータ処理を行う。データ処理が終了すると、通話が可能となる。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記した従来の携帯無線電話装置では、子機が複数ある場合でも、電話番号等のデータは当該データが入力された子機のみでしか使用できず、子機間でのデータ交換をすることはできなかった。

【0007】本発明は、最近のように子機を複数設置する傾向に鑑み、上記課題を解決し、子機の充電時に子機間のデータ交換が可能な携帯無線電話装置を提供することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】本発明は上記目的を達成するために、携帯無線電話装置の親機側に構成された充

電装置に、バッテリーとデータ記憶部とを設け、子機には入力されたデータや出力されるデータを管理し、前記子機内のバッテリーと接続されたデータ処理部とを設ける構成とした。

【0009】

【作用】本発明は、上記のような構成により、予めデータが入力された子機を親機の充電装置に接続するか、または子機を親機の充電装置に接続しながら子機よりデータを入力した場合、子機のデータ記憶部に格納されているデータは充電装置のデータ記憶部に格納され、前記子機と異なる子機を前記充電装置に設置すれば、前記充電装置のデータ記憶部に格納されたデータが前記子機のデータ記憶部に送り込まれる。

【0010】

【実施例】以下、本発明の一実施例について、図面を参照しながら説明する。図1に於いて、6は携帯無線電話装置の子機であって、以下の7乃至14の手段より構成される。すなわち、7はプッシュボタン等により成り、電話番号や付加機能を使用したいときにデータ入力を行う操作部、8は操作部7より入力されたデータを文字の形にしてディスプレイ表示する表示部、9はデータの変換、入出力及び格納等の処理を受け持つデータ処理部、10は各手段の動作を司る制御部である。又、11は子機6に内蔵されたバッテリー部であって、電池12と、ランダムアクセスメモリーより成るデータ記憶部13より構成される。14は後述する充電装置の端子と接続されて、データ交換や充電の際の信号及び電力の伝達に関与する端子である。

【0011】15は子機6に電力供給する充電装置であって、以下の16乃至20の手段より構成される。すなわち、16は供給電源を外部電源回路（図示せず。）より取った場合に直流変換する整流部、17は電池、18はデータの入出力を司るデータ処理部、19は子機6から送信されたデータを格納するデータ記憶部、20は子機6の端子14と接続され、充電時の電力やデータ交換時のデータを伝達する端子である。

【0012】以上のように構成された携帯無線電話装置について、以下その動作を説明する。携帯無線電話装置の子機6に電話番号や住所録等のデータを操作部7から入力すると、前記データはデータ処理部9で適当な形式に変換された後、バッテリー部11のデータ記憶部13に蓄えられる。ここで、データ記憶部13のメモリーは常時電池12によりリフレッシュされている。

【0013】子機6のデータ記憶部13に格納されているデータを他の子機にコピーしたい場合は、まず子機6を充電装置15に載置し、バッテリー部11の端子14と充電装置15の端子20を接続させる。こうして子機6と充電装置15を接続することにより、端子14及び20により電池12、データ記憶部13、電池17、データ処理部18及びデータ記憶部19が各々接続される

ことになる。

【0014】接続が完了すると、制御部10はデータ記憶部13に格納されているデータを充電装置15のデータ処理部18に送出する。データ処理部18は受信データを適当な形式に変換してデータ記憶部19に格納する。またこの時、子機6の電池12には充電装置15から充電が行われている。

【0015】また、他の子機にデータ記憶部19に格納されているデータをコピーしたい場合も、子機を充電するときと同じように子機6を充電装置15に接続すると、充電装置15のデータ処理部18がデータ記憶部19のデータを取り出し、データ記憶部13に送信する。

【0016】このようにして、子機が複数ある場合も、充電と共に各データを全部の子機に等しくコピーすることができる。

【0017】

【発明の効果】以上のように本発明は、子機のデータを格納するデータ記憶部をバッテリー部の電池と接続すると共に、充電装置に於いてもデータ記憶部を電池に接続することにより、複数の子機の各々に格納されているデータを一旦充電装置のデータ記憶部に格納し、子機が充電するときに同時にデータのコピーを行うことができる*

* ため、複数の子機に格納されたデータを統一することができる。

【図面の簡単な説明】

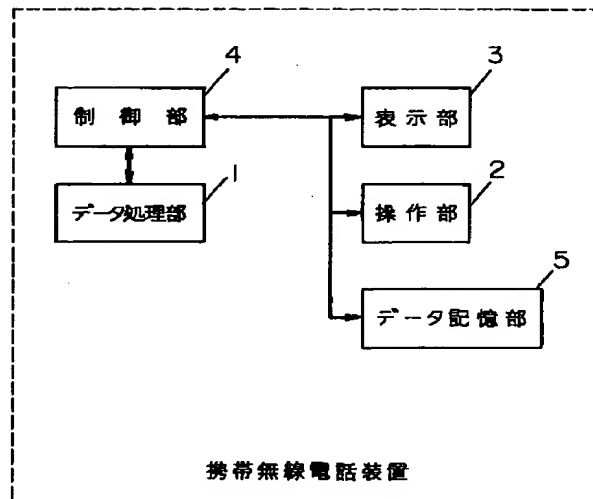
【図1】本発明の一実施例に於ける携帯無線電話装置のブロック構成図

【図2】従来の携帯無線電話装置のブロック構成図

【符号の説明】

- | | |
|----|--------|
| 6 | 子機 |
| 7 | 操作部 |
| 8 | 表示部 |
| 9 | データ処理部 |
| 10 | 制御部 |
| 11 | バッテリー部 |
| 12 | 電池 |
| 13 | データ記憶部 |
| 14 | 端子 |
| 15 | 充電装置 |
| 16 | 整流部 |
| 17 | 電池 |
| 18 | データ処理部 |
| 19 | データ記憶部 |
| 20 | 端子 |

【図2】



【図1】

